岩盤ボーリング柱状図

調　査　名　〔電子〕［災害対応No.42］井原地区　平成30年7月豪雨災害に伴う応急対策業務

事業・工事名

調査目的及び調査対象　砂防　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.C-1'	調査位置	広島市安佐北区白木町井原　神ノ倉山	北　緯	34°35'07.2959"
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	平成30年 9月10日～平成30年 9月13日	東　経	132°41'34.6020"
調査業者名		主任技師		現場代理人 / コア鑑定者 / ボーリング責任者	
孔口標高	438.60m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北0° 90°東 180°南 270°西
総掘進長	12.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機：東邦地下工機DO-D　エンジン：ヤンマーディゼルNFD13-EK　ポンプ：東邦地下工機BG-3C

標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分
438.30	0.30	CH-S	砂混り粘土	茶						
437.70	0.90	CH-S	砂混り粘土	茶褐						
436.20	2.40	S-C	粘土混り砂	茶褐						
434.70	3.90	S-G	礫混り砂	茶褐						
430.60	8.00		風化斑レイ岩	茶灰	w5	h1	E	Ⅵ	d	D
429.80	8.80		風化斑レイ岩	茶灰	w5	h1	D	Ⅵ	c	D
428.90	9.70		風化斑レイ岩	茶灰	w5	h1	E	Ⅵ	d	D
427.20	11.40		風化斑レイ岩	茶灰	w5	h1	E	Ⅵ	d	D
426.60	12.00		風化斑レイ岩	茶灰	w5	h1	E	Ⅵ	d	D

コア採取率（%）・最大コア長（cm）・RQD［%］：0〜12m の各1mで 0[0](100)

記事

GL-0.00～0.30mは、表土で砂混り粘土。植物根を含む。
GL-0.30～3.90mは、崖錐堆積物で粘土混り砂または礫混り砂。全体的に粘性分を含み、砂は細砂主体、礫はφ=2～10mm程度の角礫である。

GL-3.90m以深は基盤岩でDL～DM級の風化斑レイ岩。コアは砂状を呈し、指圧で容易に変形する。割れ目は不明瞭である。

GL-8.00～8.80mで、DH級の軟岩が採取される。コアは比較的新鮮かつ硬質で短柱状を呈す。

孔内水位／測定月日：9/10 0.50　9/11 2.10　9/12 9.50

標準貫入試験

深度 (m)	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	N値
1.15～1.45	3/300		3
2.15～2.45	1/300		1
3.15～3.51	3/360		3
4.15～4.52	4/370		4
5.15～5.45	8/300		8
6.15～6.45	16/300		16
7.15～7.45	18/300		18
8.15～8.24	50/90	90	50以上
9.15～9.40	50/250	250	50以上
10.15～10.45	35/300		35
11.15～11.37	50/220	220	50以上
12.15～12.45	45/300		45

削孔状況

深度 (m)	削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
0〜1		400	116/ケーシング	S/MC					
1〜2		550	116/ケーシング	S/MC					
2〜5	9/10	600	90/ケーシング	S/MC	0.0	0	0.0	W1 0.0	0.0
5〜6		458	90/ケーシング	S/MC	0.0	0	0.0	W1 0.0	0.0
6〜7		200	90/ケーシング	S/MC	0.0	0	0.0	W1 0.0	0.0
7〜10	9/11	26		HW/DI	10.0	60	0.1	W3 6.0	0.0
10〜11		150	66	HW/DI	10.0	60	0.0	W3 0.0	0.0
11〜12	9/12	50	66	HW/DI	10.0	60	0.0	W3 0.0	0.0